

あ

きらめず、今できることを 西尾市防災講演会

2月11日、一色町公民館で西尾市防災講演会と、併催企画として一色中学校の防災への取り組み発表会が行われました。発表会では同校情報科学部が作成した映像「一色中学校は安全なのか」の上映や、パ



ネルディスカッションなどが行われ、海に隣接する同校の防災意識の高さを感じさせられました。講演会では、昨年、市の津波防災アドバイザーに就任した「釜石の奇跡」で知られる片田敏孝氏を講師に迎え、「釜石市津波防災教育に学ぶこれからの地域防災」と題して講演。学校・地域・家庭が連携して防災に取り組むことや、巨大津波の想定に臆することなく、今できる備えをして減災に努めることの重要性を呼び掛けました。



三

河万歳や地域の踊りが一堂に会した 西尾市民俗芸能大会



2月24日、市内各地で伝えられている伝統芸能を身近に感じてもらうとともに、次代に末長く継承してもらおうという目的で、文化会館で西尾市民俗芸能大会が開催されました。

西野町小学校御殿万歳部による三河万歳をはじめ、それぞれの団体が芸能を披露。また、「みんなで踊ろう！ ワークショップ」の参加者が練習を重ねてきた西尾小唄や一色音頭、吉良音頭、幡豆音頭などが披露され、大きな拍手が送られました。



佐

久島の未来へ向かって出航！ 第三さちかぜ就航記念試乗会

2月25日・26日の両日、26年間にわたって航海してきた「第二さちかぜ」に替わる新造船「第三さちかぜ」の就航記念試乗会が行われました。佐久島行船のりばには、家族



連れや友人同士など、抽選で選ばれた方たちが続々と集結。三河湾に生息するスナメリやアイナメなどの絵が描かれた真新しい船体で記念撮影をしたり、オープンデッキから景色を眺めたりして楽しんでいました。

出航してからは、窓から見える三河湾や佐久島の原風景を堪能。快晴の空の下、快適な航海を満喫していました。



2/11～ 潮干狩り解禁

東幡豆町の沖島や、吉良町の梶島を皮切りに、各潮干狩り場が解禁されました。8月上旬まで楽しめる場所もあります。



2/22 第35回西尾市花の展覧会



市役所市民ロビーで開催され、カーネーションやバラなど117点が出展。2月生まれの方に花束がプレゼントされました。

3/2・3 第30回西尾市女性まつり

働く婦人の家で行われ、高原陽子氏によるコンサートでは、大正琴やオカリナの美しい音色が満員の会場に響いていました。



3/3 国際交流フェスタ2013



総合福祉センターで開催され、さまざまな国の人々が交流。イベントの終わりには「手のひらを太陽に」を声を合わせて歌いました。

3/9 平安の響き2013 1300年受け継がれし、雅の調べ

文化会館で開催され、和笙や竜笛、和琴など雅楽の調べが響き渡り、矢田小学校の児童による舞も披露されました。



今月の表紙

2月16日、愛知こどもの国で「枯れ葉スライダーで遊ぼう」が行われました。ふかふかの枯れ葉が敷かれたスライダー場を、そりに乗って滑り降りるこのイベントには多くの親子が参加。想像以上のスピードに、大人も子どもも歓声を上げながら楽しんでいました。

編集 雑記

表紙写真を撮影中、スタッフの方から「滑って見たら？」と声をかけられたので早速体験してみました。体育座りでそりに乗ってスタートすると、徐々に加速しながら真っすぐ滑走。が、「ちょっと早過ぎ!？」と思った瞬間にそりが右へ左へとぶれ、コース途中でひっくり返ってしまいました。動揺が影響したか、はたまた性格が表れたか…。コースの残りは自ら枯れ葉に飛び込み、葉っぱまみれになりながら転がり降りました。三十路も童心に帰る、楽しいイベントでした。(ガキ)

心

なごむひとときを ふれあい・夢・フェスタ



3月3日、吉良町公民館で「ふれあい・夢・フェスタ」が行われました。

午前中には17組の親子らが「わくわくあそび」に参加。体を使ったゲームやカードを使ったチーム対抗のゲーム、牛乳パック飛行機作りなど、さまざまな遊びを楽しみました。午後からは手話コンサートを開催。手話アーティスト飯嶋進哉さんとボーカリスト本田智奏さん、ピアニスト木須康一さんが出演し、表現力豊かな手話とともに送られる歌と演奏に、聴衆は聞き入っていました。

イベントの合間にはボランティアグループによるおしるこの接待も行われ、訪れた人は心温まる時間を過ごしていました。



き

らきら万歩会 見影山穴弘法八十八ヶ所巡り



3月8日、歩くことで健康づくりを行っている「らきら万歩会」のウォーキングイベントが行われました。今回の目的地は、西幡豆町の見影山穴弘法八十八ヶ所巡り。江戸時代末期に四国八十八札所巡りになぞらえて造られたものを近年になって修理復元。見影山の麓から頂上にかけて88体の弘法大師が、石を積み上げたほこらの中にまつられています。

汗ばむような陽気の中、参加者たちは1体1体に手を合わせながら巡り、やがて山頂に着くと、春霞の向こうに見える眺望を楽しみながら、ひとときの休息を取っていました。

汗ばむような陽気の中、参加者たちは1体1体に手を合わせながら巡り、やがて山頂に着くと、春霞の向こうに見える眺望を楽しみながら、ひとときの休息を取っていました。

